昭和学士会誌　第79巻　第6号〔757-764頁，2019〕

原　著

昭和大学横浜市北部病院　歯科・歯科口腔外科 開設後8年間における患者の臨床統計学的観察

[1] 昭和大学歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科学部門
[2] 昭和大学横浜市北部病院歯科・歯科口腔外科
葭葉　清香*[1]　渡辺　仁資[1]　伏居　玲香[1,2]
糸瀬　昌克[1,2]　長崎　理佳[1]　八十　篤聡[1,2]
代田　達夫[1]

抄録：昭和大学横浜市北部病院は横浜市港北ニュータウンに位置する地域中核病院として2001年4月に開設された．当院では包括診療を取り入れた急性期医療を行っており，歯科・歯科口腔外科は口腔に関するあらゆる疾患を取り扱う診療科として2011年3月に開設した．今回われわれは，総合病院歯科の今後の展望を考察するために，開設以来8年間に当科を受診した患者について臨床統計学的検討を行った．総初診患者数は14,856例であった．平均年齢は53.0歳であり，70歳台が最も多かった．地域医療機関からの紹介患者は6,935例で，紹介率は46.8％であった．疾患別では，歯牙・歯周疾患が4,175例（68.0％）と最も多く，口腔粘膜疾患560例（8.1％），嚢胞性疾患408例（5.9％），腫瘍性疾患350例（5.1％）と口腔外科的疾患の割合が多くなっていた．院内診療科からの紹介患者は7,921例であった．依頼内容としては，周術期口腔機能管理依頼が4,407例（55.8％）と多くなっていた．入院症例総数は747例であり，入院率は5.0％であった．近隣地域からの紹介患者が年々増加しており，地域の医療機関と密な連携体制を整えられつつあることと，今後さらに2次医療機関としての役割に重点がおかれることが考えられる．また，総合病院における歯科・歯科口腔外科として他科診療科との連携を図ったチーム医療への貢献が求められる．

キーワード：臨床統計学的観察，初診患者，開設8年

緒　言

昭和大学横浜市北部病院は横浜市北部地域に位置する地域中核病院として2001年4月に開設し，現在病床数689床，20診療科を有する総合病院である．歯科・歯科口腔外科は口腔に関するあらゆる疾患全般に対応した新設診療科として2011年3月に開設した．

急速な高齢化による疾患構造の変化，質の高い医療の確保や予防への重視などの医療を取り巻く環境の遷移の中で，病院歯科の役割は，口腔外科疾患だけでなく，高齢者および有病者の歯科治療，周術期口腔機能管理など多様化しており，医科歯科連携や病診連携が益々重要となっている．

今回われわれは，総合病院歯科の今後の展望を考察するために，開設以来8年間に当科を受診した患者について臨床統計学的検討を行ったのでその概要を報告する．

研究方法

対象は，2011年3月から2019年3月までの8年間の期間に昭和大学横浜市北部病院歯科・歯科口腔外科を受診した初診患者14,856例を対象とした．解析項目として年度別・月別初診患者数の推移，年齢分布，性別の割合，来院経路，疾患別分類，入院症例数，在院日数，入院患者の疾患別分類について検討した．

*責任著者

結　　果

1. 年度別患者数・月別患者数の推移

2011 年 3 月の開設時から 2019 年 3 月までの 8 年間において総患者数は 14,856 例であった．開設 1 年目は 939 例の初診患者が当科を受診し，8 年目では 2,413 例となった（Fig. 1）．Fig. 2 に月別の院内・院外初診患者数の推移を示す．開設当初は院内依頼患者が地域初診患者を上回っていたが（*），2012 年 8 月以降は，地域からの紹介受診患者が院内依頼患者を上回るようになった（**）．さらに，2014 年 9 月に当院おいて周術期外来が設置され周術期口腔機能管理の重要性が広まった背景もあり，ここ数年は院内診療科からの依頼患者数が多くなった（***）．

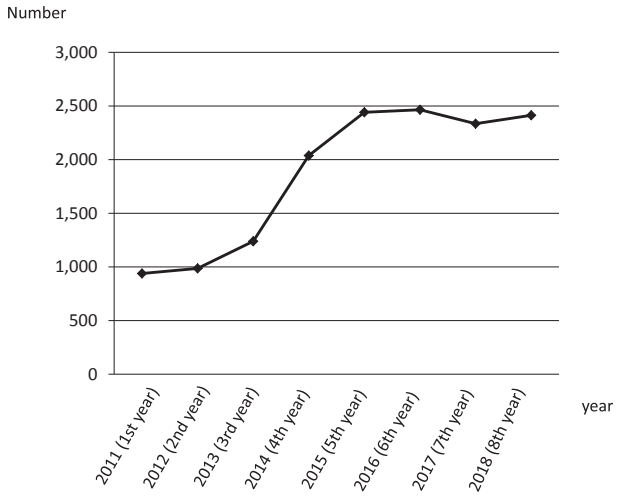


Fig. 1　Trends in the number of patients by year

2. 年齢・性別の分布

Fig. 3 には初診患者の性別・年齢分布を示す．男性 6,212 例（41.8％），女性 8,644 例（58.2％）で男女比が 1：1.4 であった．70 歳台の受診患者が最も多く，初診患者の平均年齢が 53.0 歳であった．

3. 院外依頼患者の紹介経路と疾患別分類

院外からの依頼患者は 6,935 例であった．院外紹介患者の 87.2％が横浜市北部地域からの紹介で当科を初診となっていた（Fig. 4）．院外初診患者の疾患別分類としては，歯牙・歯周疾患が 4,715 例（68.0％）と最も多く，このうち 3,404 例（72.2％）が埋伏歯抜歯依頼であった．続いて口腔粘膜疾患 560 例（8.0％），嚢胞性疾患 408 例（5.9％），腫瘍性病変 350 例（5.0％）の診察依頼が多く占め，口腔外科的疾患の割合が多くなっていた（Fig. 5）．

4. 院内依頼患者の紹介経路と疾患別分類

院内からの依頼患者は 7,921 例であった．依頼診療科の内訳としては，消化器センター，産婦人科，整形外科，内科からの依頼患者が多くなっていた．

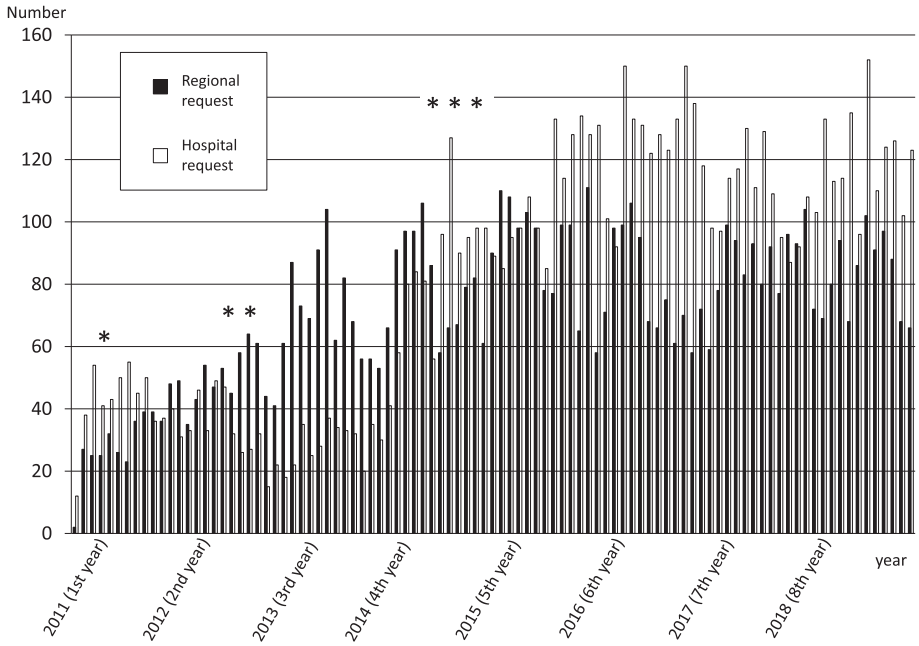


Fig. 2　Monthly change in number of patients in hospital and out of hospital

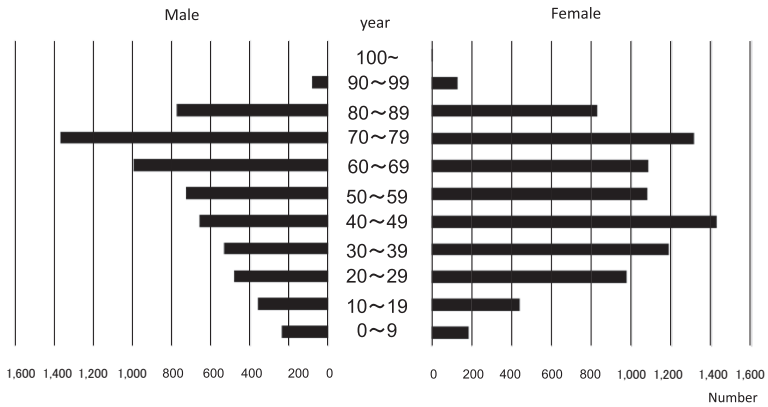
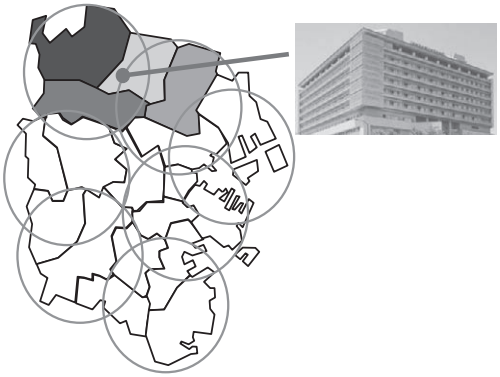


Fig. 3　Age and Sex



Referral area	number of patients (%)
Northern Region of Yokohama City	6,051 (87.2%)
Tsuzuki Ward	4,558 (65.7%)
Aoba Ward	799 (11.5%)
Midori Ward	469 (6.8%)
Kohoku Ward	225 (3.2%)
Other areas in Kanagawa Prefecture	747 (10.8%)
Outside Kanagawa Prefecture	137 (2.0%)

Fig. 4　Visit route of community request patient

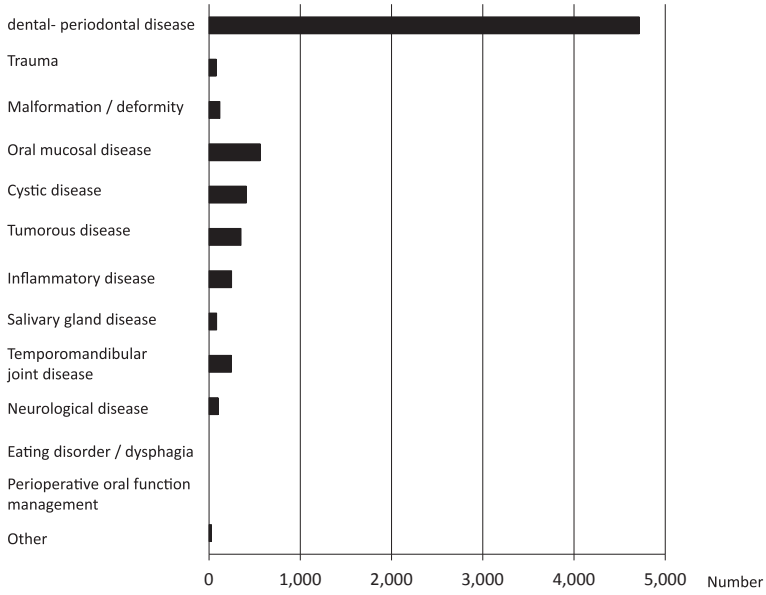


Fig. 5　Classification according to disease of community request patients

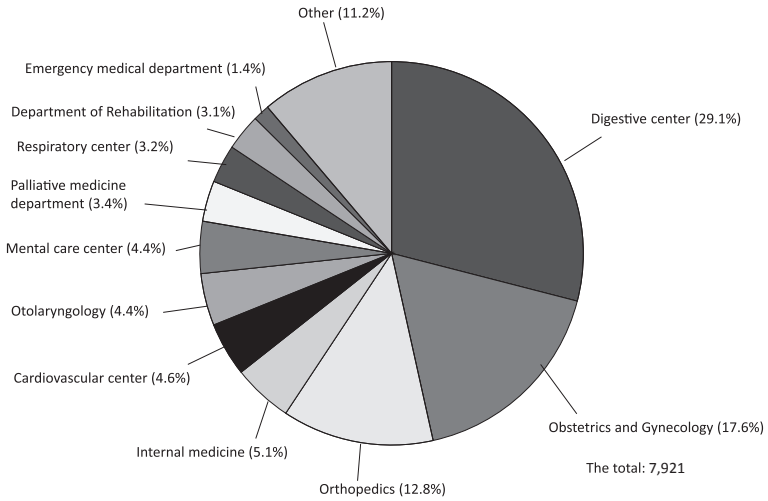


Fig. 6 Visit route of medical department in hospital patient

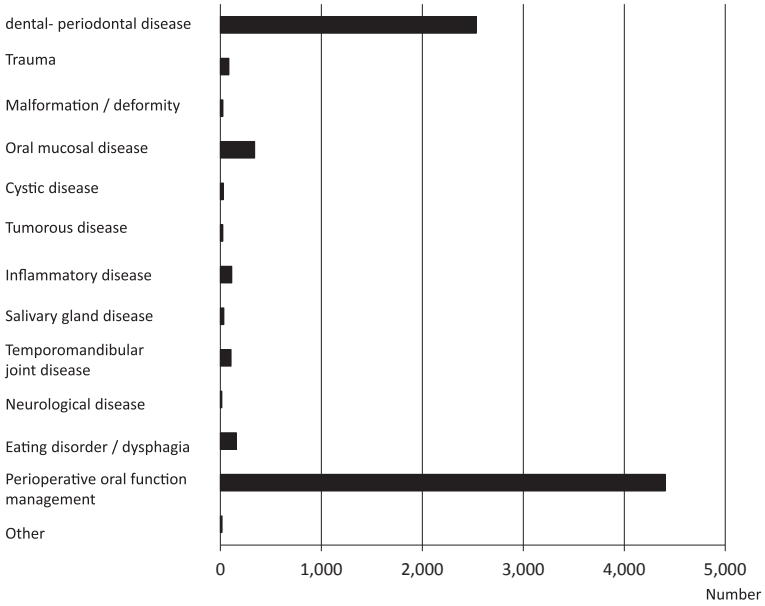


Fig. 7 Classification according to disease of medical department hospital patient

当院は20診療科の構成であり，紹介患者数はさまざまであるが，20診療科すべてから当科宛ての紹介があった（Fig. 6）．院内依頼患者の疾患別分類においては，周術期口腔機能管理依頼が4,407例（55.8％）と最も多くなっていた．続いて，歯牙・歯周疾患2,535例（32.1％），口腔粘膜疾患340例（4.3％），摂食障害・嚥下障害159例（2.0％）などの依頼患者が多い傾向にあった（Fig. 7）． 歯牙・歯周疾患の依頼内容のうち，2,362例（93.2％）が保存・補綴処置であった．

5. 入院患者数と手術件数の推移

8年間において総入院患者数は747例であり，入院率は5.0％であった．開設1年目は23人であったが，年々入院患者は増加し，開設8年次には155例まで増加した．開設3年時には，全身麻酔症例が鎮静法使用症例を上回るようになった（Fig. 8）．

6. 入院患者の在院日数内訳

入院患者の在院日数は3日間の症例が354例（47.4％）と多くなっていた（Fig. 9）．平均在院日数は3.6日であった．疾患別の在日日数を比較する

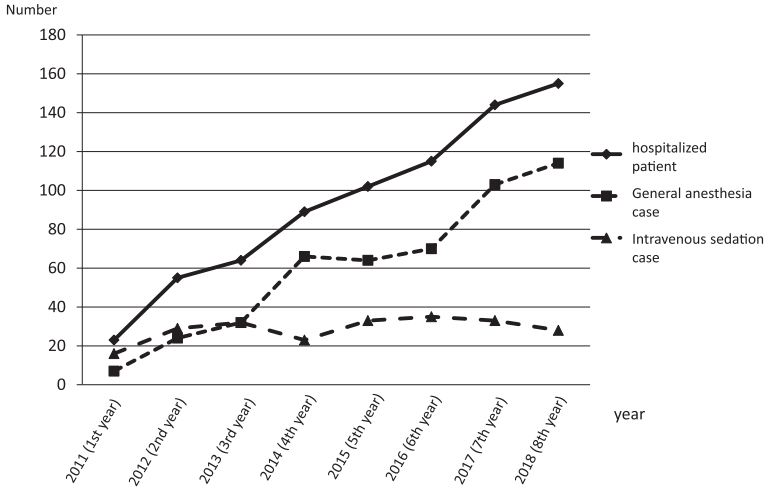


Fig. 8　The transition of number of hospitalized patients and surgery

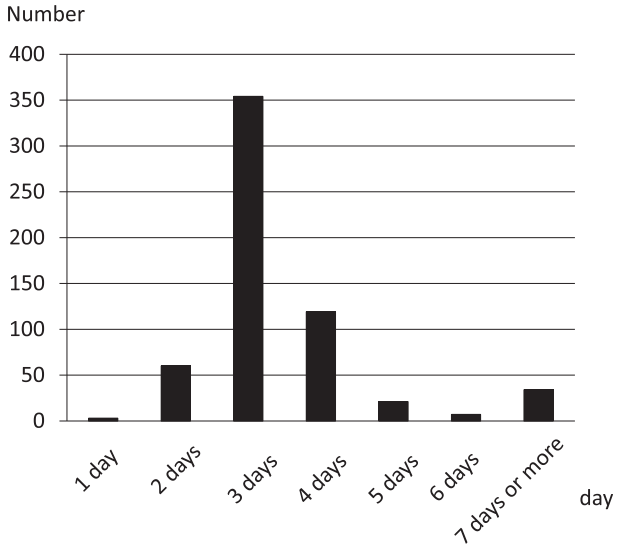


Fig. 9　Breakdown of hospitalization days in patients

Table 1　Staying days by disease

Disease classification	Average length of hospital stay (day)
Tooth / periodontal disease	2.9
Impacted teeth	3.1
Cystic disease	3.8
Malformation / deformity	3.5
Tumorous disease	3.6
Inflammatory disease	4.4
Oral mucosal disease	4.0
Trauma	9.1
Salivary gland disease	3.3

と，外傷（9.1日），炎症（4.4日），口腔粘膜疾患（4.0日）においては在日日数が長くなる傾向があった（Table 1）.

7. 入院患者の疾患別分類

入院依頼患者の疾患別分類においては，埋伏歯抜歯症例が308例（41.8％）と最も多く占め，続いて嚢胞性疾患218例（29.6％），腫瘍性疾患58例（7.9％）と続いた（Fig. 10）．年齢と疾患別分類を照らし合わせると，若年層においては埋伏歯抜歯での入院症例が多く，中高年層では，埋伏歯抜歯や嚢胞性疾患，老年層では基礎疾患のため地域歯科医院での抜歯が困難であった歯牙・歯周疾患での抜歯依頼症例が多く含まれていることが分かった（Fig. 11）.

考　　察

横浜市北部地域は人口157万人であり，港北ニュータウンの設立，治安や都心へのアクセスの良さ，自然の豊かさなどさまざまな好条件を備えていることから，2005年から2010年までの人口増減をみると14.6％と他の圏域と比較して最も人口増加率が高い．より多様化する疾病構造や患者のニーズに対応する中核医療を担うため，昭和大学横浜市北部病院は2001年に横浜市都筑区に設立された．以来地域医療に貢献し，現在病床数689床，20診療科を有する総合病院である．その中で，2011年に歯科・歯科口腔外科が開設し，現在では常勤歯科医師3名にて口腔外科診療に重点を置いた二次医療機関

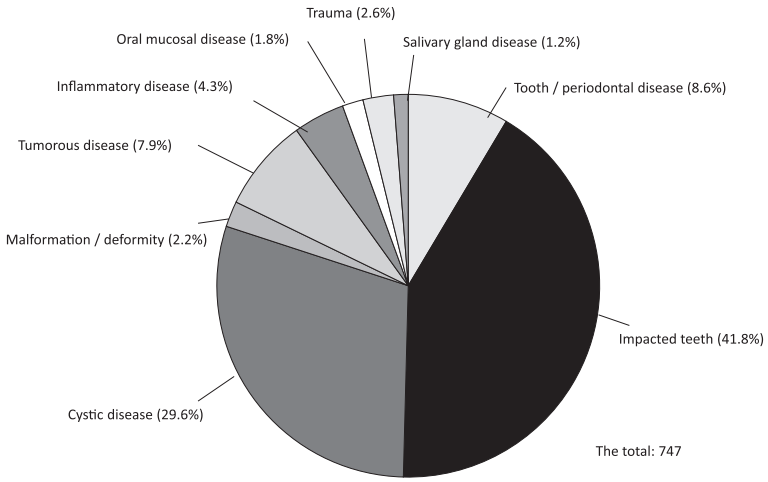


Fig. 10　Classification of hospitalized patients by disease

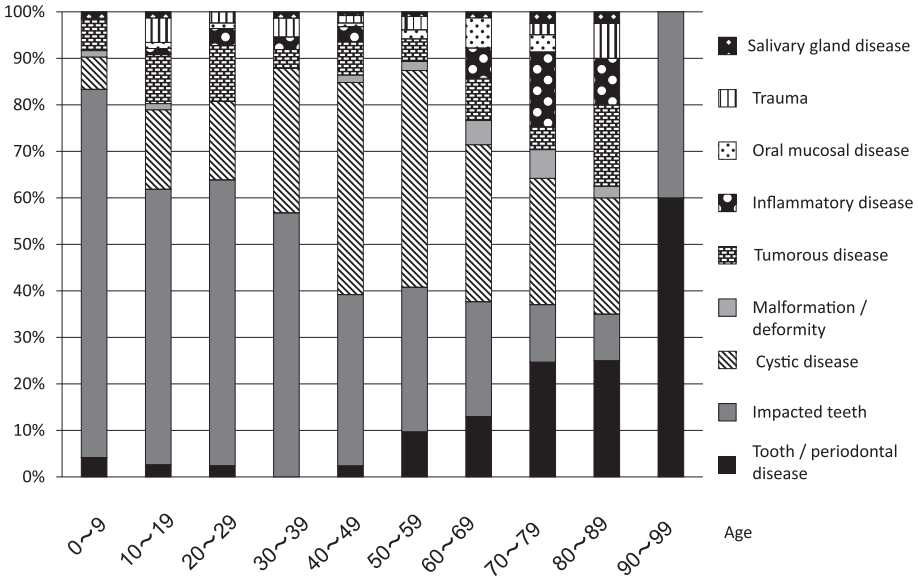


Fig. 11　Classification by age and disease in hospitalized patients

として診療に携わっている．今回，当科を受診した新患患者の実態および動向を把握するため歯科・歯科口腔外科が開設された 2011 年 3 月から 2019 年 3 月までの 8 年間に受診した患者の臨床統計学的観察を行った．

開設からの 8 年間において新来院患者総数は，年度毎に増加傾向であった．月別の地域医療機関と院内診療科からの初診患者の推移を確認すると，開設当初は院内診療科からの依頼患者が多くなっていたが，2012 年 8 月頃からは地域医療機関からの紹介患者数が院内診療科からの紹介患者数を上回るようになった．この理由として，地域歯科医師会を始めとした医療機関に当科の開設が周知されてきたことが挙げられる．当院では 2014 年 9 月に周術期外来が設置され，周術期管理チームの立ち上げが行われた．当科においても，患者の手術が安心・安全に遂行されるよう，術後の合併症の軽減に貢献するため，チームの一員として周術期口腔機能管理に取り組むようになった．この取り組みが院内でも浸透し，同時期より再び院内診療科からの依頼患者数が

増加した．

性差については，諸家ら[1-5]の報告と比較して，女性がやや多い結果となった．また，70 歳代の受診患者が最も多く，初診患者の平均年齢が 53.0 歳であった．他の施設の報告では，10 ～ 20 代[1,2]，もしくは 20 ～ 40[3-5]代に多いところが多く，当科の特徴とも考えられた． 院内からの依頼患者のうち 25.1％（1,994 人）が 70 歳代の患者であり，平均年齢は 61.7 歳となっていた． 高齢化率が 25％を超え，全身麻酔下での手術を行う年齢層も上がっており，全身麻酔前の高リスク患者として 院内診療科から当科に周術期依頼を受ける機会が多かったことが考えられる．また，現在癌患者全体の約 69％が 65 歳以上が占めると言われている．当院は地域がん診療拠点病院となっており，化学・放射線療法に伴う口腔内の有害事象に対して対応する症例が多いことも理由として挙げられる． 地域医療機関からの紹介患者の平均年齢は 43.0 歳であり，紹介患者数は院内診療科からの紹介が 7,921 例（53.3％），地域医療機関からの紹介患者が 6,935 例（46.7％）であることから，患者数に比例して総初診患者の平均年齢が上がったものと考えられた．

地域医療機関からの紹介患者数の 87.2％が横浜市北部地域からの紹介であり，疾患別分類としては，埋伏智歯抜歯依頼や口腔粘膜疾患，嚢胞性疾患などの口腔外科的疾患の依頼が多くなっていた．院内依頼患者の疾患別分類においては，周術期口腔機能管理依頼が最も多くなっていた．続いて，保存・補綴処置などの歯牙・歯周疾患，口腔粘膜疾患，摂食障害・嚥下障害などの依頼患者が多い傾向にあった．

入院患者については，初診患者の増加に伴い年々増加傾向を認めた．平均入院在院日数は 3.6 日と他施設口腔外科と比較しても短い傾向であった[2,6-8]．当院では長期入院を要する悪性腫瘍疾患に対する手術や顎変形手術などを行っていない．２泊３日で行う短期入院下による複数埋伏歯抜歯を推奨しており，地域歯科医師会を通じ働きかけにより認知度が向上し，埋伏歯抜歯患者の割合が高いことや，近年クリニカルパスの導入を行うことで入院期間が固定化したことも在院日数の減少につながったと考えられた．

医科附属病院の口腔外科では，マンパワー不足，限られた診療スペース，若手医師への教育の時間の制限などの問題と常に直面する[2,8]．他施設においてもそれぞれの問題点を抱えながら地域の医療需要に対応し，新患患者を獲得するため 医療連携講習会や逆紹介の徹底などの地域連携を推進する報告がなされている[1,4,7]．当院においても同様の地域連携に対する取り組みを行っているが，より地域患者のニーズに応えるために，健常患者さんに対しての親知らずの当日抜歯などの通院回数の削減と手術回転率の向上に対する取り組みが今後の課題になると考える．また，土曜日の全身麻酔管理枠を活用し，青年期や壮年期層で平日の医療機関への受診に制限のある患者さんの週末入院の推進も，さらなる患者数増加につながると考える．

上記より開設８年が経過し，当科は院内診療科はもちろんとして，地域医療機関にも認知されてきていることが明らかとなった．今後も地域医療への密着性を重視し，地域中核病院として高度な専門性を維持し二次歯科医療の拡充に努めていきたいと考える．また総合病院の中の歯科・歯科口腔外科として院内他診療科と連携しチーム医療を推進していくことが求められる．

利益相反

本論文に関して開示すべき利益相反状態はない．

文　献

1）黒岩裕一朗，丹下和久．春日井市民病院歯科口腔外科開設後１年４ヵ月間における患者の臨床統計学的観察．愛知学院大歯会誌．2000;**38**:647-651.

2）武田幸彦，勝又郁男，小沢一嘉，ほか．沼津市立病院歯科・口腔外科開設後６年４ヵ月における入院患者の臨床統計的観察．歯学．1993;**81**:12-24.

3）岡野　健，遠藤昌敏，高田陽子，ほか．草津総合病院歯科口腔外科における外来および入院患者の臨床統計的観察　開設後６年間の動向について．滋賀歯医師会誌．2013;**1**:28-31.

4）太田　舞，北本幸恵，青井陽子，ほか．市立長浜病院歯科・歯科口腔外科における初診患者の臨床統計．　滋賀歯医師会誌．2017;**5**:17-20.

5）成松花弥，小林孝憲，飯田明彦，ほか．最近５年間における長岡赤十字病院歯科口腔外科新患患者の臨床統計的検討．新潟歯会誌．2017;**47**:17-21.

6）伊東　優，伊藤発明，國井綜志，ほか．名古屋掖済会病院歯科口腔外科における入院患者の臨床統計的検討　最近８年間の実態と傾向について．愛知学院大歯会誌．2016;**54**:13-19.

7）長縄憲亮，石井　興，渡邉裕之，ほか．姫路赤十字病院歯科口腔外科開設から21年間における入院患者の臨床統計的検討．愛知学院大歯会誌．2012;**50**:69-75.

8）加納欣徳，長縄吉幸，佐藤雅美，ほか．大垣市民病院歯科口腔外科における過去10年間の入院症例についての臨床統計的観察．愛知学院大歯会誌．2002;**40**:217-222.

CLINICO-STATISTICAL SURVEY OF PATIENTS IN EIGHT YEARS AFTER OPENING AT SHOWA UNIVERSITY NORTHERN YOKOHAMA HOSPITAL DENTISTRY AND ORAL SURGERY

Sayaka YOSHIBA[1)], Hitoshi WATANABE[1)], Reika FUSHII[1, 2)], Masakatsu ITOSE[1, 2)], Rika NAGASAKI[1)], Atsutoshi YASO[1, 2)] and Tatsuo SHIROTA[1)]

[1)] Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Divison of Oral and Maxillofacial Surgery, Showa University School of Dentistry

[2)] Dentistry and Oral surgery, Showa University Northern Yokohama Hospital

Abstract —— Showa University Northern Yokohama Hospital was established in 2001 as a regional core hospital located in the Northern Yokohama area. We aimed to consider the future prospects of oral surgery in Showa University Northern Yokohama Hospital and therefore carried out a clinico-statistical survey of the patients in the eight years after opening. The results of the survey showed that the total number of new patients from 2011 to 2019 was 14,856. Regional and hospital referred new patients were 6,935 and 7,921, respectively. In regional request patients, the number of teeth and periodontal disease is the highest at 4,175 cases (68.0%), 560 cases for oral mucosal disease (8.1%), 408 cases for cystic disease (5.9%) and 350 cases for neoplastic disease (5.1%). The rate of oral surgical disease has increased. In hospital request patients, the perioperative period oral function management was increased with 4,407 cases (55.8%). Hospitalized patients increased during this eight-year period, and the total number of hospitalized patients was 747. The most frequent classification was dental-periodontal disease. The average number of days in hospital was 3.57. Compared to the number of days in hospital by disease classification, the number of days in hospital tended to increase in the order of oral mucosal disease, inflammatory disease, and trauma. A collaboration system of vicinity medical facilities has been developed, and the emphasis is placed on the role as a secondary medical institution. As dental professionals we assist in contribution to the medical teams of other occupations.

Key words: clinico-statistical survey, new patients, eight years after opening

〔受付：5月14日，受理：5月25日，2019〕